



## ご挨拶

第91回総会会長 石崎 武志

能登北部呼吸器疾患センター長  
公立穴水総合病院内科医長  
金沢医科大学呼吸器内科臨床教授  
福井大学名誉教授

第91回日本結核病学会総会は「医療スタッフの抗酸菌症卒後教育—よりよいチーム医療を求めて—」をテーマとして、平成28年5月26日・27日、石川県立音楽堂等で開催されました。このテーマを選んだ背景はと申しますと、我が国の結核病罹患率は緩やかに減少を続けていますが、呼応するかのような卒前の結核学部教育の希薄化が卒後の医療従事者の認識低下につながり、国民の結核脅威への関心度も低下しています。そして、結核・抗酸菌症患者の地域偏在と医師職の診療科偏在・地域偏在というねじれ現象は改善されそうにありません。まさに、チーム医療としての結核・抗酸菌症診療体制の効率化が求められます。

金沢では3回目（第17回総会 昭和14年、大里俊吾教授／第25回総会 昭和25年、日置睦奥夫教授）、66年ぶりの本学会総会の開催です。会期が木曜・金曜日でしたが、約1400名の方々が参加されました。これまでとは方向性の異なるテーマを手際よく拡散していただきましたプログラム委員および関係者の皆様、そして、活発な討論に参加いただきました方々のおかげで、本総会を成功裏に終えることができました。厚く感謝申し上げます。

招請講演ではアップデートの話題としての結核免疫学の最新の進歩と、教育的観点からの旧ソ連邦の結核診療の光と影について講演していただき、特別講演にはわが国の現状の問題点としての「高齢者結核の特徴と治療上の問題点」、そして、教育特別講演には抗酸菌症病巣の空間認識としての「肺結核の画像診断」のレクチャーがなされましたが、関心度が高く満席に近い状態でした。また、抗酸菌症教育をめぐるシンポジウム会場でも率直な意見交換がなされました。新しい試みとして、若手医療者を対象とした「研修医・エキスパート向け抗酸菌症集中セミナー」を2日間午前・午後を開きました。会場は立見席が出るほど盛況で、テキストブックを急ぎ増刷しました。

今会の総会時には新規会員も増え、会員の総数が4000名を超えました。次世代医療者へ抗酸菌症研究の進歩と診療の進歩を確実につなげていける一歩となると期待します。本学会が広く抗酸菌症研究および診療の牽引役を担い、さらに、効果的な教育・啓発活動を拡大していくことを願ってやみません。